

# 第30回

## うつのみやこども賞だより

平成25年度 2回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

### 『カントリー・ロード』

阪口正博／著（BL出版）



#### ～読んだ本の感想より～

- 田舎に行った佐藤浩紀（主人公）が、「故郷がない」と言い否定的だったのが、「心の中に故郷はあるんだ」と肯定的になっていくのを見て、プラス思考は大切だと思った。
  - 友情のたいせつさを学びました。
  - 「ぼく」のお別れがとてもさみしくて感動した。
  - レギュラーからはずされた小島が三校総当りの試合で石田の代わりに出て、チームのためがんばる姿が感動した。
- 最初はふくざつな気持ちだったけど、クラスの仲間とたくさんの行事や行動を通して仲良くなっていくのがよかった。
- 来年にまたみんなと会うときの話があったら読みたい。
- 私も主人公みたいに転校したことがあるので、主人公の気持ちがわかったような気がしました。

### 『レナとつる薔薇の館』 小森香折／著（ポプラ社）

- 題名から人をひきつけるような話で、きゅうけつ鬼が少し怖かった。
- この本はレナが様々な体験をしながら力強く生きていく。こういう物語の形が好きなので、とてもよかったです。
- 父さんを亡くしたレナが、悪いうわさばかりのつるばらの館のひみつを探るところがときどきして、おもしろかったです。
- 人は見ためだけでは、はんだんできないと思った。
- たくさんの個性的な登場人物がたくさんいて、とてもおもしろかった。

### 『竜が呼んだ娘』 柏葉幸子／著（朝日学生新聞社）

- 谷の子の自分さがしのお話で、竜はおそろしいというイメージからはなれているお話でした。
- ミアはウスズ様を助け、旅に出て、たくさんの大事なことを知ることができて良かったです。
- わたしも竜に乗ってみたいと思った。
- なぞときをしながら星の音をさがすのがおもしろかった。
- ミアが竜をとて考えていたところが、とても心にしみた。
- 絵がこの本をいんしょうづけてくれる感じだった。

### 『母ちゃんのもと』 福明子／著（そうえん社）

- 最初、題名をみて、母ちゃんのところまで行く物語だと思いました。しかし読んでみると、母ちゃんの素だとわかりました。そういう、なぞかけみたいなのがおもしろかったです。
- 母ちゃんを守るために、仮病で休むなんてすごい勇気があるなあ。
- お母さんのやる家事を全部やるなんて、すごいと思った。
- このお話を読むと母の大切さについて、よく分かります。
- 「母ちゃんのもと」という不思議な物を想像すると、「心配だな」と思いました。